

鹽竈神社 玉津島神社

Tamatsushima-jinja Shrine
Shiogama-jinja Shrine



玉津島神社・鹽竈神社

〒641-0025 和歌山県和歌山市和歌浦中3-4-26

TEL. 073-444-0472 (午前9時～午後5時)

<http://tamatsushimajinja.jp>

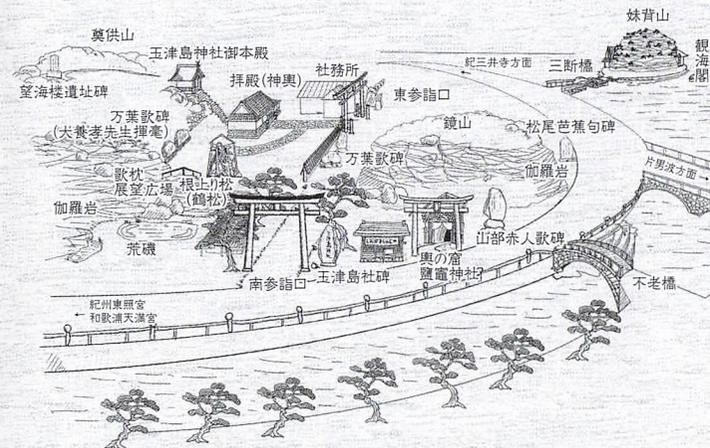


公式HP



Instagram

周辺のごあんない



神亀元年甲子の冬十月五日
聖武天皇が紀伊国に幸す時に
山部宿禰赤人の作る歌一首 併せて短歌

やすみしし わご大君の 常宮と 仕へ奉れる
雑賀野ゆ そがひに見ゆる 沖つ島 清き渚に
風吹けば 白波騒ぎ
潮干れば 玉藻刈りつつ
神代より しがぞ舞き
玉津島山

万葉集 (917)

沖つ島 荒磯の玉藻
潮干満ち い障り行かば
思はえむかも

万葉集 (918)

若の浦に 潮満ち来れば
瀉をなみ 葦辺をせして
鶴鳴き渡る

万葉集 (919)

◆ 玉津島神社

ご祭神 稚日女尊 息長足姫尊 衣通姫尊 明光浦靈

例祭日 四月十三日

ご神徳

開運厄除け、縁結び、交通安全、病氣平癒、商売繁盛、学業成就、芸能和歌上達

ご由緒

玉津島神社の創立は極めて古く、社殿によれば「玉津島の神は『上つ世』より鎮まり坐る」とある。第四十五代聖武天皇が即位の年の神亀元年（七二四、今から一三〇〇年前）、玉津島に行幸した際、山部赤人が、神代よりしかぞ尊き玉津島山」と讃嘆した如く、風光明媚な神のおわしますところとして崇められてきた。

神社周辺には六つの小高い島山（玉津島六山）がある。いま妹背山だけが入江の島として残るが、かつて、船頭山・妙見山・雲蓋山・奠供山・鏡山も、玉のように海に在ったと推察される。

ご祭神の説明

稚日女尊は、伊弉諾・伊弉冉尊の御子であり、天照大御神の妹神

◆ 鹽竈神社

ご祭神 鹽槌翁尊 祓戸大神四座

例祭日 九月十六日

ご神徳

安産守護、子授け、健康長寿、漁業豊穰、航海安全

ご由緒・ご祭神

主祭神、鹽槌翁尊は、古事記「海幸彦・山幸彦」の神話に「鹽椎神」として登場する。兄・海幸彦から借りた釣針を海中に失くし、困っている弟・山幸彦に、海神（綿津見神）のところにへ行けと送り出した神である。尊の教えのとおり、山幸彦は龍宮の豊玉姫と結婚し、姫は安産により御子を授けられ、山幸彦は神武天皇の祖父となった故事から、安産・子授けの神として人々の信仰を集めている。

また尊は、潮の満ち引き、潮の功徳により人間が生まれることを説いて、人々の出生、生命を守護された。そして塩が人々の食生活に重要であると説き、全国各地を廻られ、十三箇所において製塩の法を伝えられた。和歌の浦鹽竈は、そのうちの一つにあたる。

玉津島神社御神輿

明和四年（一七六七）、後桜町天皇の執政関白近衛内前が、寄附・奉納したものであり、京都の神輿師桑嶋作右衛門の作による。その後、後桜町天皇は、聖武天皇の故事にならわれ、春秋二時に祭祀を齎行。その際にこの御神輿を用いられたことが記録に残されている。平成十九年四月、二四〇年を経て、傷みが激しかった為、篠田めぐみ氏が中心となって、多くの方の御浄財で、昔の優美・華麗な姿そのままに復元された。

平成二十五年五月

県美術工芸品（工芸品）に指定

奠供山（玉津島神社拜殿横登り口）

玉津島神社背後の小高い岩山は奠供山と呼び、今から一三〇〇年前の神亀元年（七二四）、聖武天皇が玉津島行幸の際に登られ、詔を発せられた旧蹟である。名称の奠・供ともにお供えの意である。

登ればこんにちでも、広大な海を望み、片男波の砂洲に抱かれた入り江を見下ろし、中腹に紀三井寺のある名草山も望まれて、海のない大和人が、三日も四日もかかって、ようやくこの大景にたどり着いた時の喜びをはせることができる。

にあたり、後世、またの御名を丹生都比売神と申し上げる。稚日女尊は稚くみずみずしい日の神、又、はた織りの神でもある。

息長足姫尊は、即ち神功皇后であらせられる。皇后が海外に軍をおすめになられた時、玉津島の神（稚日女尊）が非常な靈威をあらわされたため、厚く尊崇され、後に、ご自身も卯（うさぎ）の年・卯の月にちなみ、当社に合祀された。古来うさぎは、月の精とされ、子孫繁栄や豊穰をもたらし、神様の使いとされる。

衣通姫尊は、第十九代允恭天皇の后で「衣を通して光り輝いた」と言われるほど麗しく、また殊のほか和歌の道に秀でておられた。第五十八代光孝天皇の勅命により合祀されたが、これは光孝天皇の夢枕に尊が現れ、

立ちかえり またもこの世に 跡垂れむ

その名うれしき 和歌の浦波

と詠まれた故事による。衣通姫尊が祀られ、玉津島の神は和歌三神（他に住吉大社・柿本神社）の一社として、朝廷はもとより、ひろく崇められてきた。

明光浦靈は、聖武天皇の勅命によりお祀りすることになった。即ち聖武天皇は、神社背後の奠供山からの海の眺望を愛され、新たに明光浦と名付け、荒廃することのないよう詔を発せられた。

以上のご由緒ゆえに当社には、安産・子授け祈願、健康長寿、祈願成就の御礼参りに、多くの人々がお詣りされる。

奥の窟

鹽竈神社のある「奥の窟」は、鏡山を覆う伽羅岩を太古に波が浸食してできた洞窟である。室町時代まで毎年、天野丹生明神（現在の丹生都比売神社）の御神輿が玉津島神社へ渡御される慣わし（浜降りの神事）があり、先ずこの「奥の窟」へ御神輿が渡らせられた。（丹生津比売神社では今も、春の大祭で玉津島神社に遥拝する「渡御の儀」が残る。）

境内のご案内

玉津島神社御本殿

慶長年間（一六〇六）、紀州を統治した浅野幸長侯が修復・造営したものが、長い年月のため荒廃が甚だしかった。平成四年、篠田博之・めぐみご夫妻を中心に多くの方々の御浄財で、社寺建築の粋を施した修復が完成し、往時の絢爛華麗な姿を再現している。

平成二十九年四月

和歌山市指定文化財に指定

根上り松（名称鶴松）

玉津島神社境内に、大正十年に和歌山市高松から移転された巨大な根上りの松がある。根上りの松とは根元にあつた砂が海風で吹き飛ばされ、長い年月の間に根が露出したもの。和歌山ではかつて海浜の内陸に点在していた。

天然記念物に指定されている。

国指定名勝・日本遺産

国指定名勝「和歌の浦」

玉津島神社と周辺約九十万平方メートルは国指定名勝「和歌の浦」に指定されている。

平成二十二年八月指定

日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」に詠い継がれる、美しき風景、潮の干満によって刻一刻と変化しながら、四季折々の多彩な風景を魅せる和歌の浦は、一三〇〇年前に万葉集に詠われ、芸術や文化を育んだ歴史ある風景として日本遺産に認定された。

平成二十九年四月認定